鉄砲洲神社詩吟　素読論語
（平成 26 年 11 月 14 日）

【一五】子曰く、臧武仲、防を以て後を為すことを魯に求む。君を要せずと曰うと雖も、吾は信ぜざるなり。

蔵武仲は人に嵌められて、隣国に亡命をしました。亡命したら当然のことですが、自分の家は潰されて家系は絶えてしまうので、何とか先祖から守っている防という地域を身内に継がせてもらいたいと、求めました。それを魯の国が認めて、蔵武仲の事件は一見落着しました。

「君を要せず」は、主君に強要していないと言っても、私は信じないと孔子は言いました。主君を脅迫するなということです。

これを今の時代に置きかえると、ちょうど今は 12 月 14 日に衆議院選の投票があるらしいですが、もう確定のようですね。昨日の話ですが、私の関係している政治関係者は外国に出かけるのも止めて、そちらに走りますと言います。

それで、安倍さんの腹の中では消費税を先送りにしたいみたいです。先送りにしなければ経済がさらに酷くなるのが目に見えているが、増税をしたい人達は脅迫をしてくる。3 つの連合で増税を決めたのだから、予定どおり事を進めて、いまさら変更はしないで必ず増税をする。増税をしなければ、総理の地位から引きずり落とすよと、裏では脅迫をしている。脅迫をしているというところでみると、約束どおり増税をしてくれれば、引き落とし工作はしないと言うけれど、そんなことは信じられない。

言い方を変えますと、安倍さんの氣分でいえば、私のことを脅迫しているのだから、増税をしたら今の地位から引きずり落とさないということは信用できない。自分の力で強行しようと思えば、今、うるさい人達の首を飛ばしてしまうことができるから、どんどん飛ばしてしまえ。たとえ、議席が減ったとしても少々だ。それより、もしもうまくいったら、公明党を削ることが出来るという思惑があり、会期したら即座に解散をする。したがって、ここの蔵武仲の事件と似通っているので、ご説明申し上げました。

【一六】子曰く、晋の文公は譎りて正しからず。斉の桓公は正しくして譎らず。

同じようなことで、晋の文公は、時期にかなった処置をしたが、筋は通すことができなかった。

晋の文公は、たしか宮城谷昌光さんが『長耳』という小説を書いています。19 年間亡命をして、最後に天下の覇者になるという話で、けっこう面白いです。

昔、死んだふり解散ということを中曽根康弘さんがやりました。これはタイミングを見て偽り、正しい道は行わなかった。時の総理大臣は嘘をついても良いとなっていますから、中曽根さんは嘘をついたというけれども、タイミングを計って選挙をして自民党を大勝に導いた。

斉の桓公は、小泉純一郎さんとみれば良いです。「正しくして譎ざる」で、愚直に自分の信じたことを通そうとしたら、通らなかったので、筋を通すということで郵政解散をしましたから、郵政解散という大義名分を立てて大勝ちをさせた。

今日は、選挙に絡めて御説明を申しあげました。